

会社探訪

126

最新最適の医療を福山に

医療法人徹慈会 堀病院



理事長(院長) 宇高 達毅 氏

「商工福山」 2015年9月15日号より

福山市沖野上町の「医療法人徹慈会堀病院」は中四国地方で唯一とされる耳鼻咽喉科の単科病院として、1976年(昭和51年)の開院以来、地域医療の発展に寄与してきた。中耳炎など耳の病気に関する手術数は毎年、中四国でもトップ10に入る実績を誇る。宇高毅理事長・院長は2011年(平成23年)就任。昨年11月に病棟を新築したほか、今年4月、新たに眼科を開設し、視覚・聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器診療を中心とした専門病院となった。宇高院長は医療情報の発信にも力を入れ、異業種との交流にも関心を示す。今後の病院運営の展望等について存分に語ってもらった。

最新最適の医療を迅速に提供

国の定義では19床以下の医療機関は医院(クリニック)、20床以上だと病院となる。耳鼻科専門の医療機関で「病院」に位置づけられるのは国内でもほとんどない。

開院以来、堀病院は中耳手術の専門病院として広く知られてきた。慢性中耳炎の手術は4000例を超える実績がある。

耳科の領域では毎年コンスタントに1000以上の手術実績を誇る。鼻科領域においては内視鏡を用いた蓄膿症の手術、アレルギー性鼻炎の手術に特色がある。そうした点が評価され、福山市内はもちろん、西は広島市や東広島市、東は井笠地域から来院がある。中には九州や四国、近畿地方から伝手をたどって来院するケースもあるという。

地域でやれることは地域でとの思い

最新最適の医療を迅速に提供することをモットーとする同院。「大病院に行かなくても、手術も外来も当院でお世話できる。専門化されているからこそ」と宇高院長は特徴を話す。

宇高院長は2010年(平成22年)に同院に赴任。翌2011年(平成23年)に理事長・院長に就任した。愛媛県今治市出身。「大学も九州で福山には地縁も血縁もなかった」という。だが高校時代の同級生が福山で会社を経営していて、その縁で知り合った別の経営者と親しくするなど、地域とつながることも心掛けていく。

縁あって福山で活動している。中高時代を過ごした松山市とは人口規模で似た都市だが、福山は

「いい意味で独特な風土、ものづくりの風土があるように感じる」という。

福山商工会議所の会員になっていることからわかるが、医療界以外の他業種との交流にも積極的だ。一例として、福山のものづくりのまちとしてのポテンシャルを医療に活用することをあげる。「例えば医療機器の作成などができないか。そういう力がある企業とコラボできないか」ということも念頭に置く。

福山は広島や倉敷と異なり、1000床以上の大病院がない代わり、中小病院が多い。大病院では足りない部分を中小が補っているのが特徴といえる。だが「これからも病院だけの枠でやっていけないのか。医療界という枠を取り払い、他業種と

も情報交換しながらやっていかないと、福山の特徴を活かせない」とも思っている。

宇高院長には「地域でやれることは地域で、福山でやれることは福山でやっていく。それが福山の医療に貢献することにつながる」との思いがある。それには企業と病院をつなぐ役割を持つ人や組織が必要だ。お互いをつなぐ、いわば船頭役を誰が担うのが課題となる。

また、医療情報を発信することにも熱心に取り組む。「病院もただ人が来てくれるのを待つのではなく、何をしているのか、どういう手術をしているのかなどを一般の方に知らせるべき」と考えている。

眼科開設で専門病院の機能向上

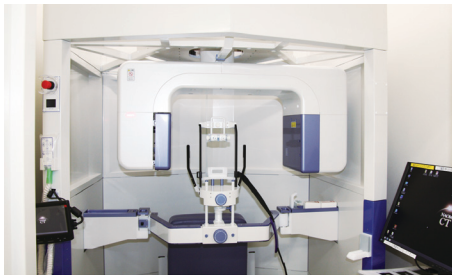
昨年11月に新病棟を建設。今年4月には新たな診療科として眼科を開設した。加齢黄斑変性症の治療に用いるレーザー治療装置など最新の治療機器も導入している。これにより、五感のうち触覚を除く4つを診療できる。感覚器を診る専門病院としての機能は著しく向上した。「耳鼻科と眼科を併設した病院は他に例がないのでは」と胸を張る。

高齢化の進展で今後、目や耳が悪くなる人の数が増えていくことが予想される。「手術も診療も大抵のことはうちでできる。病気によってあちこちの病院や行くよりも一つのところで診る方がよい」と眼科開設の効果を語る。

堀病院が立地する沖野上町界隈は総合病院をはじめ、脳神経外科、循環器など幅広い専門分野の病院が並ぶ。「これだけ専門化された病院が一つの通りに並ぶのは大変珍しい」という。その結果、それぞれが強みを発揮して病院の集合体として、地域に高度な医療を提供している。



◀ サロンのようにリラックスできる眼科の待合



▶ 最新の耳鼻科用CTは、1分程の検査で診断精度向上と3Dで観察可能で、被ばく量が通常の約10分の1



(医)徹慈会 堀病院

- 所在地 福山市沖野上町三丁目4-13
- TEL (084)926-3387
- FAX (084)926-3388
- ホームページ <http://www.hori.or.jp/>

(取材・文 ビジネス情報 塩田 聡)

頑張る患者はとことん治療

土曜日を手術日にあて、日曜は術後の患者のケアを行うだけに、宇高院長はまとまった休みをとることがない。「病院は365日、入院患者もいるのでなかなか体があけられない」という。

世界の主流から外れることがないスタンダードな治療を心掛けると同時に、「治してほしいと頑張る患者さんには、とことん治療してさしあげたい」と語る。

企業等の産業医としての勤務経験がある宇高院長。「従業員の鼻づまり一つとっても、生産性に影響する。企業もそこを考えて対応することが必要」と力説する。